



10月27日から11月9日は秋の読書週間です。秋の夜長を読書で過ごしてみませんか？

『チベットのものいう鳥』

田海燕／編 君島久子／訳 岩波書店 1989年 2520円 読みもの

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

聡明と知恵を身につけるためにサラの森にいる金玉鳳凰を捕まえに行った王子。しかし、金玉鳳凰を連れ帰るためには金玉鳳凰を捕まえても、帰り道には絶対に口をきいてはいけないというのです。もし、口をきいてしまえば金玉鳳凰はサラの森へ逃げ帰ってしまうのです。

なんとか金玉鳳凰を捕まえることができた王子ですが、その帰り道、金玉鳳凰は物語を話しはじめます。それは「ふしぎな紙切り老人」の話でした。物語が終わりに近づくと、金玉鳳凰はふいに口をつぐみました。そこで王子は思わず「それからどうした。」と聞いてしまったのです。金玉鳳凰は物語の続きを快く教えてくれましたが、サラの森へ帰ってしまいました。王子はため息をついてもう一度金玉鳳凰を捕まえに行きます。そして、その帰り道、鳳凰はまた物語を始めたのでした。

このお話は全体でもひとつのお話になっていますが、鳳凰が話す20以上の物語もどれも面白く楽しめます。一気に読んでも楽しいですが、毎日鳳凰の話す物語を1つずつ楽しんでもいいかもしれません。

<子どもに手渡すときのポイント>

このお話はアラビアン・ナイトと同じような連環体（一篇の大きな物語の中に一つ一つの異なる短編が次々につなげられているもの）の形式をとっています。中の短編はチベットに昔から伝えられている民話だそうです。

自分で読むなら高学年からおすすめですが、読んであげるなら中学年からでも楽しめるお話です。読書週間、ご家庭や教室で、毎日1話ずつ読んであげてはいかがでしょうか？



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。